

今日のキーワード 『SQ』前の日本株式市場は波乱含みか？

日本の株式市場は、米中貿易摩擦激化の懸念や米国IT関連株の下落などから不安定な展開が続いています。こうした状況の中、12月14日に“Special Quotation”（『SQ』）を迎えます。株式市場は『SQ』の前に突然変動率が高まったり、前後で株式市場の方向性が変化することがあります。今回はショートポジションが高水準にある一方、『SQ』前にソフトバンク株の売り出しもあり、不確定要素が多く波乱含みで注目されます。

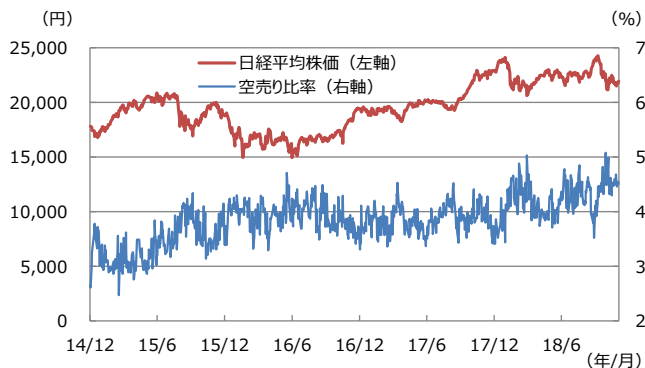
ポイント1 『SQ』とは先物・オプション取引を決済するための特別清算指数 『SQ』前は変動性が高まる傾向

- 『SQ』とは株価指数の先物取引やオプション取引などを、決済期日で決済するための「特別清算指数」のことを指します。今回は12月14日に先物取引とオプション取引の清算が行われます。
- 投資家は『SQ』に向けて多様なポジションの決済等の対応を迫られます。『SQ』前に何らかの要因で株価が変動した場合にポジションを一気に解消する動きが出て、株価の変動率が大きくなる傾向があります。例えば『SQ』の2日前にあたる2015年9月9日には、要因が明確でない中で日経平均株価は日中に上下1,013.75円の変動幅となりました。

ポイント2 積みあがるショートポジション 『SQ』の週はソフトバンクの申込期間

- 空売り比率は一般に40%を超えると高水準とされますが、10月1日～11月27日まで40営業日連続で40%超が続いています。また外国人投資家が、日経225先物とTOPIX先物を10月（大阪取引所発表、10月1日～11月2日）に約3.5兆円売り越しており、将来買い戻しをもたらすショートポジションが積み上がっています。
- ソフトバンクグループの国内通信子会社ソフトバンクが、12月19日に東京証券取引所に上場します。資金調達額は最大で約2兆6千億円となりますが、その申込期間が『SQ』前の12月11日～14日となります。

【空売り比率と日経平均株価】



(注) データは2014年12月25日～2018年11月27日。
(出所) QUICKのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 今回の『SQ』前は波乱含み

- 『SQ』前はただでさえ不安心理が高まりがちですが、今回は積み上がったショートポジションを一斉に買い戻すことによる株価上昇と、ソフトバンク株申し込みのための換金売りによる株価下落の可能性があり、波乱含みです。ただし『SQ』前の株価の大幅変動は、ポジション整理のための一時的なものであることに留意する必要があります。ネット裁定残（2.54億株、11月22日現在）は下限に近く株式市場が底値圏にあることを示唆しており、『SQ』後の株式市場は次第に落ち着きを取り戻し、底堅い動きとなる可能性が高いとみられます。
- ※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

ここも
チェック! 2018年11月 2日 今回の日本株の下落を『需給・テクニカル指標』から見ると？
2018年 9月25日 日本株を『空売り比率』など需給・テクニカル指標から見ると？

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。